

季刊 ジャネット Ja-Net

No.14

2000年7月25日発行

| | |
|--------------------------------|---|
| View from the Other Side | 3 |
| あちこち日本語ご紹介[東京都・渋谷区]..... | 4 |
| あちこち日本語ご紹介[オーストラリア]..... | 5 |
| 教材紹介『日本語文法ハンドブック』..... | 6 |
| なんでも情報BOX | 8 |

スリーイーネットワーク

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3 松栄ビル
TEL03-3292-6410 FAX03-3292-6197
E-mail: ja-net@3anet.co.jp

Ja-NetはJapanese Networkの略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

巻頭寄稿

インドネシア語通訳のたわごと

インドネシア語通訳
西廣咲子



「インドネシア語を英語に?」

極く最近のことである。ある放送局から取材の申し込みがあった。英語での取材であると言う。私はインドネシア語の通訳を生業としているが、英語の実力は、と言うと恥ずかしい話だが平均的な日本人よりも遙かに劣っていると、自分でも情けない思いばかりしている人間である。耳で聞いて少しは解る、が答える事ができない。そうかと思えば勝手に口をついてでてくるのがインドネシア語であったりする。それなのに「英語で」とか「英語に」などと仕事の依頼が舞い込んでくる。世の中には通訳をしていると言えば、それならば英語もいけるのではないかと錯覚をする人がどうも多いらしい。極端な注文になると、「インドネシア語を英語に」や「英語をインドネシア語に」などとなる。あ、またかと半ばあきらめてはいるが、日本の社会のなかではいまだにアジアの言葉が認知されていないのと、少し僻みっぽくなる。こんな時、日本は東洋の外れなのかそれとも西洋の外れなのかと考えながら、なぜ「インドネシア語を日本語に」や「日本語をインドネシア語に」であってはいけないのかと思ったりする。日本でもインドネシアでもどれ程の人が本当に英語を解するのか知らないがそれ程までに英語にこだわるのはなぜなのだろうか。インドネシア語も日本語もアジアの国の言葉である。しかもあまり論理的ではないという共通性を持った言葉でもある。英語を介してインドネシア語や日本語にした場合と、直接お互いの言葉に訳した場合の微妙なずれを気にしないではいられないのだ。

私は、仕事柄お客様と一緒に各地を訪れる。そして、訪問先で食事の接待に与ることもある。外国の賓客には西洋料理が常識なのだろうか何処に行ってもたいていは豪華なフランス料理が用意されていたりする。米食民族のインドネシア人がほんの

少量を口にして、にこやかにしていればいる程、なぜか哀しくなる。ほんの少し世界の食文化を知っていれば、もっと心の籠もった食事会だったのにと残念に思いながら、本当にもてなす心があったなら、少しでいい、訪れる賓客の国の事を知って欲しいと願わずにはいられない。世界中がたった一つの法則で動いているのではないのだから。

私がインドネシア語の通訳を生業としたのが、二十余年以前、周囲の誰も彼もがあまりに反対するので、ならば挑戦してみようと思ったのが始まりであった。私の前を歩いている人も、私の後を追う人も誰もいない。全くの手探りで進むしかなかった。そして様々な仕事を通じて身をもって多くの事を学んだ。映画の加工作業からは日本語の特に話し言葉の難しさを、活字が映像と一致した時、命を与えられたように生き生きとした話し言葉に変わるのを、そして一言一言が話される状況によって多面的な意味を持つ事を教えられた。様々な分野で活躍する日本、インドネシアの有識者からは、一人の人生では経験することのできない事柄を学び、言葉を媒体として人の意志を伝えていかなければならない通訳という職業の厳しさや難しさ、怖さと奥深さ、全く反対の構文を持つ日本語とインドネシア語の同時通訳の試行錯誤、多くの人との出会い、これら全てが私の今に続いている財産である。

文化は全身で感じるもの

インドネシアに関わって40年、意識してはいなかったが、私はインドネシアの文化と接触し続けてきた。インドネシアの生活者であったとき、街にでて庶民の中に入り、ダイナミックな生活力に圧倒されながら、徐々に慣れて何もかもが違和感を感じなくなった時、私はやっとインドネシア社会が私を少しだけ

受け入れてくれたと思ったのを、ふっと思い出した。それまで私は異文化社会の中にたった一人放り出されていたはずなのに、カルチャーショックを余り感じなかったのか割合平気で過ごしていたらしい。もっとも日本の状態もやっと経済成長を始めたばかりの頃であって、インドネシアとの格差も余りなかったからすんなりと溶け込めてしまったのかもしれない。日本社会が成熟していく過程で無くしてしまったアジア的な共同社会の規範に縛られずに、より西欧的な生活様式の中で生きている私たちが、インドネシアを含めたアジア社会の複雑さの中に放り込まれたら、きっともっと驚くことになっただろうと想像する。

異文化理解とは、もし観念的な理解を意味するのであればとても難しいのではないと思う。文化の真の芯の部分は頭で考えるようなものではなくて、全身で感じるもののように思えるからだ。知ったかぶりが一番怖い、私には知れば知る程奥深くなくて難しくなっていく。ある知識レベルの人が理解できることでも、多くの庶民は理解できるとは限らない。そして理解することと理解されることが同時に行われなければ本物とは思えない。それには自分自身を良く知り語れるようにならなければならないと思っている。

映画作りの通訳を通して

ある時、「青空が僕の家」のスラムット・ラハルジョ監督と小栗公平監督の対談に三日間つき合ったことがある。研ぎ澄まされた感性の持ち主の夜を徹しての対談である。気の張りつめの神経を磨り減らす時間が流れていった。

話題は世界戦略的な映画作りと地域に根を下ろした映画作り、アジアの映画とは、もしもアジアで映画が生まれていたら等々、幅広く、奥深いものである。お互いに蘊蓄を傾けて一歩も引かない。アジアで映画が生まれていたら、ワヤンの上演で見られる様に、静的で平面的な場面がやがて円形になり網のように緩やかにその世界を包み込んで、そこに有るものと共存するのではないか。

ものを対立軸に置くのではなく、有機的に何らかの関わりを持っているものと捉えて、間や空間の美しさを優しい目で捉える事ができるのでは、等と尽きる事が無い。鋭い感性と感性のぶつかり合いが順調に推移するには言外の意を捉え伝えなければならない。対話者と通訳者の波長が合わなければ話は続かない。私は自分の言葉や芸術に対する感性を試されている様なとても難しいけれど楽しい経験をさせていただいた。世界の市場を目標にした映画作りが行われる傍らで、揺るぎない態度で自分の思いにこだわって映画作りをする人々がいる。その風土でしかできない映画作り、それが映画の世界を豊かにしている。そういう映画を通して私たちは多様な地の多様な人の生きざまを知ることができた。そういえば、意識するかしらないかに拘わらず、いつのまにかインドネシアの人々が為政者の特徴的な発音をするようになった時、その背景にある文化がインドネシアの多様な文化に及ぼす影響を憂っていた芸術家の一人がスラム

ットさんであった。多民族国家に生きる感性が目に見えない将来を見ていたのかもしれない。そして不思議な事にインドネシアの人々誰もがあれ程熟した特徴的な発音が今は全く聞こえてこない。見事に消えてなくなってしまった。その代わりに都会生まれの風変わりな流行語が浸透しつつある。この二つの現象は情報の伝達が映像化されたことによって起こった事で、文字を媒体としていたら起こらなかったかもしれない。



映画の仕事を通じて出会った女優のクリスティン・ハキムさん(右)とは、ボランティアグループ「もしもしスラムット・バギ基金」で、インドネシアの幼児にミルクを送る活動をしている。

言葉は自分のアイデンティティー

近頃情報化と言葉の問題を耳にする。詳しいことは解らないが、私は私の拠り所でもある言葉をもっと大事にしていきたいと思う。遠い将来のことは解らない。それでもたった一つの言葉や価値観が世界を動かせるとも思えない。例え、それが極地化されようとも多様な言語や価値観や文化その他様々のものが存在してこそ生きて見えるものがあるように思える。地球規模であらゆる事が進行する社会が目の前にある。だからこそ自己のアイデンティティーをしっかりと持っていなければならないだろう。でなければ自分を見失ってしまうことになる。言葉にしても生まれ育った地で最初に馴染んだ言葉をしっかりと身に付ける事ができて初めて豊かな表現力を培う事ができるのだと思う。19言語を話す知人が言っていた事を思い出す。「言葉は勉強するのではなくて覚えるものです」と。

西廣咲子(にしひろ・さきこ)

文部省所管社会教育団体を通じて、留学生ホームステイ計画、青少年交流、芸術交流(特にミナンカバオ芸能の日本への紹介)等を手がける。現在、「もしもしスラムット・バギ基金」実行委員会委員長としてインドネシアの子供達にミルクを送る運動を展開中。

VIEW FROM THE OTHER SIDE

モンゴルと日本 アジアの友人として言葉や文化を理解したい



私が初めて、日本について聞いたのは中学生の頃だった。モンゴルの歴史の授業でモンゴルと日本の間に1939年に起こった「ノモンハン事件」のことを先生から教わったのがきっかけだった。当時、モンゴルと日本は同じアジアの国でありながらモンゴルは社会主義の国、一方日本は民主主義の国であるため両国の間で外交関係はほとんど無かった。だからモンゴル人は日本の文化、習慣、生活について何も分からなかった。

1990年代に入り、モンゴルはロシア、東ヨーロッパで起こったペレストロイカの影響を受けて大きく変わり始めた。今までの社会主義を廃止し、新しい民主主義の道を進み始めた。ちょうどその時、私は高校を卒業し、自分にとって初めての重要な選択をすることになった。私は子供の頃から外国語に興味があって、ロシア語と英語を勉強していた。私は自分の希望としてモンゴル大学の英文学科に入学したいということを両親に伝えた。お父さんは私の話を聞いて、「モンゴルはこれからアジアの国として発展していくだろう。その中で日本との関係は今よりもっと盛んになるでしょう。だからアジアの国々の文化、歴史、言語をよく勉強する必要がある。デーギはどう思っているの」と言った。私は何日間も考えて、今まで聞いた事もない、見たことも無い日本語を勉強することを決心した。モンゴル語と日本語は同じウラルアルタイ語族の言語で文法的にはよく似ている。だから日本語で話したり、文章を書いたりするのがわりと簡単である。

しかし、モンゴルは漢字を使っていないので漢字に慣れるまではとても難しく時間がかった。それに私が大学の1,2年生の時、日本語の教科書、辞書、資料などが少なくてほとんど手に入らなかった。そのため毎日、大学での勉強をしっかりと聞いて、ノートに写し、先生の言うことを一つづつ覚えなくてはならなかった。私の先生は「日本語は頭、目、手で覚えなくてはならない。一つの漢字を300回以上も繰り返して書いていけば目も手も漢字に慣れ、自然に頭から離れなくなる」とよく言っていた。時間をかけてたくさん書いた漢字はいつまでたっても忘れない。テストなどの時、漢字を思い出せない場合、何回も書いてみると漢字が浮かんできた。

また難しく、ややこしい漢字を楽しくて簡単に覚えるための色々な工夫をした。自分の家のよく目につく所に漢字を大きく書いて貼っておいたり、漢字の意味、書き順を書いたカード



を作ったりした。毎週の土曜日にやっていた勉強会も私たちにあって楽しいひとときだった。クラスの皆が集まり、日本語で会議をやったり、日本の歌、テレビドラマを見たりした。また日本人の友達を作ろうという話があって、日本人との手紙のやりとりを始めた。日本人の友達が私たちに日本の辞書や教科書を送ってくれたり、手紙の書き方、文章を直してくれたりしたのがとても勉強になった。このように日本語を通じて、クラス全体がまとまり、同じ目標を持ってお互いを助け合って努力していくようになっていた。

私には日本に留学する夢があった。この夢がかなって、今は神奈川県立の専修大学で勉強している。最初は私の日本語は日本人に通じるのかな、外国で一人で暮らしていけるかなと色々な心配事があったが、学校の皆が温かく迎えてくれて今はすっかり日本での生活に慣れた。現在、日本の社会福祉、特に児童福祉のことを勉強している。モンゴルでは社会構造の変化と共にインフレが進み、失業率が急激に増加したくさんの家庭が貧困に陥っている。また親の離婚、失踪、暴力などの家庭崩壊が原因でたくさんの子供が家から離れて、適切な保護を受けずに路上で暮らしている。モンゴルへ帰ったらこのような子供たちの役に立てる仕事をしていきたい。今は、日本の児童福祉施設の現場を見学したり、学習ボランティアをやったり、資料を集めたりしている。日本の児童福祉施設の現場を見て歩くのは私にとって貴重な体験になっている。モンゴルには「100回も聞くより、1回見たほうが価値がある」ということわざがある。

将来、日本で学んだことを生かしてモンゴルと日本の掛け橋となって活動したいと思っている。

ALZAKHGUI DELGERMAA(アルザフグイ・デルゲルマー)

専修大学大学院修士課程1年在学中の女性。モンゴル国立大学国際関係学部・日本語学科を卒業後来日。1998年4月専修大学文学部に入学、社会学を専攻し日本の社会福祉を学ぶ。書道や茶道とともに日本古来の武道、杖道も学んでいる。

あちこち日本語ご紹介

国内編



東京都
渋谷区

21世紀に向けて 日本語教育にコンピュータ利用を考える

(財)言語文化研究所 附属東京日本語学校

本年2000年、東京日本語学校(通称 ナガヌマスクール)は開校52周年を迎えます。創立者長沼直兄(なおえ)の「教師の任務は自分の考えを学習者に押しつけず、学習者の学び取る力を授けること」をモットーに、21世紀に向けて、常に新たな展開を考えています。

「日本語を学びたい人」と「日本語を教えたい人」のために

「本科」「進学科」「イブニング」「プライベート」の4コースで日本語を学ぶ学生は、国籍も背景も様々です。1948年4月に2名の生徒から始まった当校ですが、現在まで卒業生は19,000名を数えます。

授業方法としては「修正直接法」を基本としていますが、学習者の状況によっては、効率を考えて英語による解説などを取り入れることもしています。また、LLやビデオなど、視聴覚教育も取り入れてきましたが、現在はコンピュータをどう日本語教育に活かしていくかという課題に取り組んでいます。また、日本語教師を目指す人には、毎年恒例となった「夏季集中セミナー」がありますが、1950年に開講したこのセミナーも今夏で57回を迎えます。このセミナー受講生と日本語教師長期養成講座(現在休講中)の受講生は、合わせて3,700人になります。セミナーから送り出された卒業生たちは国内外の日本語教育の第一線で活躍しています。今年は新たな試みとして、日本語教師のためのマルチメディア教室を開講しました。

コンピュータ利用の試み

当校では、CAI教材の開発を中心にコンピュータと日本語教育の可能性を探ってきましたが、昨年6月に教育技術研修センター

が完成し、その中に、新しくコンピュータ教室(Mac20台、Windows5台)を開設しました。生徒が何を欲しているかということを知りぬいた現場の教師たちが工夫を凝らした日本語学習用CAI教材は「日本語玉手箱」としてこのほど完成しました。

<日本語学習者へ>

初めに、全学生に存在を知らせるためにクラス単位でコンピュータ教室紹介の授業を行い、それ以後は開放時間に個別に利用してもらうようにしました。「クリック、ダブルクリック、マウス、キーボード、ドラッグ」など最低限必要な用語を導入してから、CAIでの日本語学習、インターネットの利用、そして中上級者へは日本語入力による自己紹介文の作成などを行っています。教師は教師用プロジェクターをホワイトボードで見られるように接続し、初級クラスでも日本語のみで説明しています。

CAIはテスト形式になっているものもあり、結果がコンピュータに残るようになっていたので、教師から学生へのフィードバックも可能であり、また、結果が出ることを学生も楽しんでいるようです。一方、インターネットは「Yahoo!Japan」を利用して 学生が自分の目的に応じた日本語のウェブページを探せるように、キーワードの選び方、入力方法から、希望する情報を探索できるようになるまでを指導しています。

現在、開放時間は、CAIで学習したり、



学生が溢れるコンピュータ教室の開放時間

インターネットの検索、メールを送ったりと多くの学生が利用しています。教師も常駐し、いつでも学生の質問に答えられるようにしています。

<日本語指導者へ>

日本語教師を対象にマルチメディア教室、オーバービューコースと実習中心の2つの個別コースを5-6月に開講しました。コンピュータを使って具体的な教材作成などを行っています。

今後マルチメディアを日本語教育の現場でいかに活用できるか、また、より多くの学生に効果的に利用してもらうための課題など考えなければならないことはいろいろあります。

これまでの教科書教材開発の歴史を踏まえての更に一歩進んだ開発や、学生にも教師にも気持ちよく過ごせる学習環境について、また、コンピュータ利用についても、常に新たな試みを展開して行きたいと考えています。

当校のコンピュータ教室やマルチメディア教室についてはホームページをご参照ください
<http://www.naganuma-school.or.jp>



今年89歳を迎えた長沼守人理事長も21世紀に向けてコンピュータを使い始めました。

あちこち日本語ご紹介

海外編



オーストラリア
アデレード

政府の言語政策で日本語の盛んなアデレードより

アデレード大学
富田明子

アデレードはオーストラリア大陸の中央南部に位置する南オーストラリア州の首都です。州の人口の7割約98万人がこの街に集中しています。また、アデレード芸術祭(Adelaide Festival of Arts)と、パロッサ・バレー(Barossa Valley)のワイン祭りが毎年交互に開かれ、別名、祭りの州(Festival State)として有名です。石造り、レンガ造りで煙突の多い、クラシックでお洒落な街アデレードに位置し、緑多いキャンパスの中にアカデミックな雰囲気を漂わせているのがアデレード大学です。

このアデレード大学の文学部アジア研究学科に日本語のコースがあります。オーストラリアでは二学期制で、大学によってまたは学部によって修学期間が異なりますが、三年で卒業できる場合が多いです。また、二つの学位を取得することも可能でその場合は四年もしくは五年かかるのが普通です。学位取得のあと優等学位(Honours)、それから大学院の修士課程(Masters)、博士課程(Ph.D)があります。フルタイムで学ぶ若い学生が大多数ですが、社会人、主婦、現役の先生でパートタイムの学生として新しい知識を得たい、または違う分野も教えたいと希望し

て大学に戻ってきている人も多くいます。

日本語コースは全くの初歩から始めるコースと中、高校ですでに五年間以上日本語を学んだ学生のためのコースがあります。フリンダース大学の学生には出張講義という形で、同じコースを開講しています。その他、日本関係の科目として国際関係学、社会学等も取ることができます。また、日本の大学との交換留学制度もあります。三年間のコース終了後もっと磨きをかけたい学生や日本語を母国語とする人達のためにもう一つ上のレベルを設けようという話も進んでいます。また、日本語教育、日本語言語学、日本語応用言語学で取れるHonoursコースもあります。日本語学習者の多様化に応じて最低一学期、最長三年間続けてコースが取れるようになっています。文学部以外の学生でも学位の一部もしくは三年間学習した場合はディプロマ・オブ・ランゲージ(Diploma of Languages)が取得できます。

使用教材としては一、二年生レベルでは「みんなの日本語」シリーズ、三年生では「日本語中級」301」を使ってい

ます。教材は文法の説明も分かりやすく、実際に使える語彙が学べると好評です。その他、LL、ビデオやコンピューターを用いた授業、ゲーム、ロールプレイ、ペアワーク、グループワークを取り入れたコミュニケーション・アプローチ、学習者の分析能力・比較思考を促すピア・ティーチング、ピア・レスポンス(注)も広く用いられています。

オーストラリアでは大学だけでなく小、中、高校レベルでも日本語が盛んです。1997年の国際交流基金の調べによるとオーストラリアの日本語学習者の人口は韓国に次いで世界で2番目でした(最近では中国がそれに変わったようですが)。南オーストラリア州政府でも言語政策の一つとして小学校から外国語を学ばなければいけないことになっています。日本語を選ぶ学校も多く、98の小学校、55の中、高校で教えられています。それも反映して、地元のアデレード日本協会、豪日協会、豪日友好協会等の主催による様々な催し物があり、日本語学習者は日本人の少ないアデレードにいても比較的、日本文化に触れる機会も多くあるという恵まれた環境にあると言えます。



自由に質問が飛び交うアデレード大学の授業風景(左端が筆者)

注:ピア・ティーチング、ピア・レスポンス

従来の教師が一方向的に教える、つまり学習者はいつも受け身であるというクラス進行過程から、教師は助け役に回り、学習者が教師にかわってクラスメイトに教え、お互いに教えあう相互教授法をピア・ティーチング(peer teaching)、評価の過程でクラスメイトも参加しお互いに評価し合うのをピア・レスポンス(peer response)と呼んでいる。つまり、役割として教師は知識の提供者というより、学習者の促進者(facilitator)として、一方、学習者は自分の問題として学習の内容、過程、進度などを決定するのに参加することにより、学習成果の善し悪しの責任も取ることを目指している。

教材紹介



『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 文法とはコミュニケーションに欠かせないもの

一橋大学留学生センター
庵 功雄

人はことばと共に生きています。ものを考えるときも、喧嘩をするときも、ラブレターを書くときも、およそ四六時中ことば(母語)を抜きにした生活は考えられません。

ことばにはしくみがあります。これを「文法」と言います。文法はそのことばを母語とする人全てが共有しているもので、それにより私達はコミュニケーションができるのです。

そのことばを母語としない人(非母語話者)がそのことばを母語とする人(母語話者)とコミュニケーションをするためにはそのことばのしくみ(文法)を知らなければなりません。そして、そのとき文法を教えるという問題が生まれます。

母語話者は全て文法を「知っています」。例えば、「田中さんは私にその本をあげました。」という文が正しくないことは母語話者なら誰でもわかります。では、「なぜ」この文は正しくないのでしょうか。(ヒント:上の文を「田中さんは山田さんにその本をあげました。」や「田中さんは私にその本をくれました。」にすると正しい文になります。)

このように、文法を「知っている」とことばを「教える」ことは別の問題です。そして、母語を教えるためにはある程度の文法的知識が必要ですが、日本語教育においてこうした文法知識を体系的に記述した本はこれまであまりありませんでし

た。私達がこの度出版した『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』は日本語教育の現場で必要とされる文法知識を実用的かつ体系的に説明したものです。

本書では日本語能力試験の3、4級の項目が網羅され、各項目は「これだけは」「もう少し」「もう一歩進んでみると」の3つの部分に分かれています。このうち、日本語教育の現場で必要とされる知識は「これだけは」と「もう少し」の部分に書かれています。授業に際し最低限必要な知識は「これだけは」にまとめられており、よく似た形式との使い分けや少し進んだ内容については「もう少し」の記述が役に立ちます。

「これだけは」と「もう少し」が現場のための記述であるのに対し、「もう一歩進んでみると」はその項目について自分でさらに知りたい方のための道先案内になっています。

高校までの文法教育の影響が「文法」には「難しい」「無味乾燥だ」といった印象が強いようです。高校までで教えられている日本語の文法(学校文法)には様々な問題がありますが、最大の問題は文法を「暗記」の対象としていることです。実際の文法には美しい体系があります。一例として、ラ抜きことば

掲載項目一覧(目次)

第 部

§ 1 指示詞・疑問詞(コソアド)

§ 2 格助詞

コラム 生産性

§ 3 名詞と名詞を結ぶ助詞
並列助詞と「の」

§ 4 存在・所有を表す表現

§ 5 時間を表す表現(1) テンス・完了

§ 6 時間を表す表現(2) アスペクト

§ 7 変化を表す表現

§ 8 可能を表す表現

コラム 「(ら)れる」の意味

§ 9 引用

§ 10 自動詞と他動詞

§ 11 授受の表現 あげる・くれる・もらう

§ 12 ~ていく・~てくる

§ 13 話し手の気持ちを表す表現(1)

判断

§ 14 話し手の気持ちを表す表現(2)

意志・願望

コラム ことばのゆれ

§ 15 話し手の気持ちを表す表現(3)

命令・依頼・勧誘

§ 16 話し手の気持ちを表す表現(4)

義務・勧め・許可・禁止など

§ 17 話し手の気持ちを表す表現(5)

終助詞

§ 18 比較

コラム モダリティ

§ 19 埋め込み表現

§ 20 名詞修飾

§ 21 複文と接続詞(1)

「~て」・付帯状況・並列などの表現

§ 22 複文と接続詞(2) 時間

§ 23 複文と接続詞(3) 理由・目的

§ 24 複文と接続詞(4) 条件

§ 25 複文と接続詞(5) 逆接

コラム 複文

§ 26 とりたて助詞

コラム 主語

§ 27 「は」と「が」

コラム 格の階層性

§ 28 関連づけ

コラム 相補分布

§ 29 疑問文の種類と文末形式

§ 30 立場を表す表現

ヴォイス(受身・使役・使役受身)

§ 31 その他の構文

§ 32 敬語

コラム 「丁寧な話し方」とは?

§ 33 文体

§ 34 語順・省略

第 部

§ 35 品詞

§ 36 活用

§ 37 名詞(文)

§ 38 動詞

§ 39 形容詞

§ 40 副詞

§ 41 数量詞

§ 42 接辞

主要初級教科書との対応表

動詞・形容詞 活用表

4. 動詞の意志性

- (1) 他人に知られ部屋に隠れていたとき、あの人は出会った。
- (2) ?今度はもっとしらしめと出直さう。
- (3) 学生が注意している情報があるためにわざと間違った字を置いた。
- (4) そのことを考えていて間違った字を置いた。

これだけでは

●動詞は意志的な意味を表すことができる動詞と表すことができない動詞に分けられます。(1)の「出会う」のように無意志的な行為を表すことはできるが意志的な行為を表すことができない動詞を無意志動詞、(3)(4)の「置く」のように意志的な動作も無意志的な動作も表すことができる動詞を意志動詞と言います。

●無意志動詞は、人が主語にならない「ある」や「降り」「降る」などの他、人等の心理現象や心理現象を表す「もつ、驚かす、いらだく、後やむ、弱る、眠れる、ためらう、通う、気がめる」などがあり、意向型として「×もつこう」などの形として言えないものです。この他、「驚かす、もつ、かかす」などの意志的な意味を持つものや「出会う、落ちる」など「義務」という意味を内在するものもここに含まれます。

無意志動詞は無意志的であることを表さない動詞ですから、意向形(→14)にできないと同時に命令形(→15)にもできないのが普通です。例えば「もう落ちろ」は発せませんが、ただし、「あまりいらだつな」のように否定命令(→2)にはできるものや、第三者に向かって要求または勧誘するような「もつてくれ」などの言い方があるものもあります。

●意志動詞は、意志的にも無意志的にも使える動詞で、「泳ぐ、書く、話す」など動詞動詞の大半がこのタイプに入ります。

意志動詞は無意志的な動作を表す場合もあります。例えば「脱走」は「脱走しよう」と思っていないでも「つまずいて転んだ」と言うことができます。

38.



本書の一例。セクション38動詞より。

予備知識として押さえておきたい「コラム」。

について考えてみましょう。

ラ抜きことばというのは、「着る、食べる」のような一段活用動詞の可能形として「着られる、食べられる」ではなく「着れる、食べれる」のような「ら」のない形を使うことで、「ことばの乱れ」の例としてよく取り上げられます。

一方、「書く、読む」のような五段活用の動詞の可能形は以前は「書かれる(kakareru)」「読まれる(yomareru)」のようであったのに対し、今は「書ける(kakeru)」「読める(yomeru)」のように-ar-のない形が使われています。つまり、ラ抜きことばというのは五段動詞で起こった変化(「-ar-抜き」と同じ変化が一段動詞でも起こっているにすぎないのです。そして、この変化は五段動詞と一段動詞の活用の体系を平行に保とうとする意識に基づいているのです。

このように、ことばには思わず「なるほど」と膝を打ちたくするような美しい体系が隠されています。本書ではできる限りことばが持つそうした美しさを明らかにするように努めました。本書を読まれた方がことば(日本語)のファンになり、その美しさを日本語を学んでいる方々に伝えていただければ幸いです。

主要初級教科書との対応表

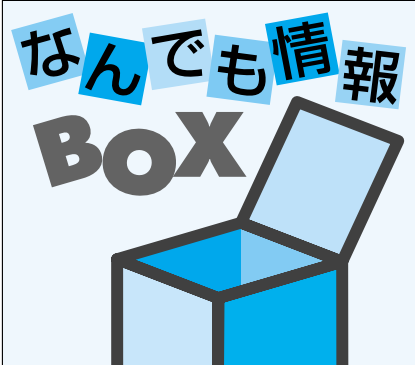
【教科書】
 み・ふ：『みんなの日本語(1・2)』ニューネットワーク編者 ニューネットワーク
 新：『新日本語の基礎(1・2)』海外社通訳研修会 (AGTS) 編 ニューネットワーク
 学友会：『進学する人のための日本語初級』進学協会日本語学協会 編 進学協会日本語学校
 教・学：『日本語初歩』国際交流基金日本語国際センター編 凡人社
 新文化：『新文化初級日本語(1・2)』文化出版センター編 凡人社
 東洋文：『初級日本語』東京外国語大学留学生日本語教育センター編 凡人社
 注：教科書中の番号は該当する形式を取っている番号を表す。[*]はその形式を取っていないことを表す。なお、「新文化」に関しては「本文」と「文型」で記号をよびがらえているものの両方を掲載。
 注2「み・ふ」の番号は該当する形式が廃止されている番号の場合はスペース()で代替する。同じ場合は中央に記号。

| 形式 | 新 | 教 | 学友会 | 学友会 | 新文化 | 東洋文 |
|-------|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 一あいつ | 22 | 22 | * | * | 28 | 28 |
| 一あいつに | 22 | 22 | * | * | 28 | 28 |
| あいつら | 23 | 23 | 1 | 1 | 29 | 29 |
| あいつら | 1 | 1 | 2 | 2 | 3 | 3 |
| あいつら | 1 | 1 | 3 | 3 | 4 | 4 |
| あいつら | 1 | 1 | 4 | 4 | 5 | 5 |
| あいつら | 1 | 1 | 5 | 5 | 6 | 6 |
| あいつら | 1 | 1 | 6 | 6 | 7 | 7 |
| あいつら | 1 | 1 | 7 | 7 | 8 | 8 |
| あいつら | 1 | 1 | 8 | 8 | 9 | 9 |
| あいつら | 1 | 1 | 9 | 9 | 10 | 10 |
| あいつら | 1 | 1 | 10 | 10 | 11 | 11 |
| あいつら | 1 | 1 | 11 | 11 | 12 | 12 |
| あいつら | 1 | 1 | 12 | 12 | 13 | 13 |
| あいつら | 1 | 1 | 13 | 13 | 14 | 14 |
| あいつら | 1 | 1 | 14 | 14 | 15 | 15 |
| あいつら | 1 | 1 | 15 | 15 | 16 | 16 |
| あいつら | 1 | 1 | 16 | 16 | 17 | 17 |
| あいつら | 1 | 1 | 17 | 17 | 18 | 18 |
| あいつら | 1 | 1 | 18 | 18 | 19 | 19 |
| あいつら | 1 | 1 | 19 | 19 | 20 | 20 |
| あいつら | 1 | 1 | 20 | 20 | 21 | 21 |
| あいつら | 1 | 1 | 21 | 21 | 22 | 22 |
| あいつら | 1 | 1 | 22 | 22 | 23 | 23 |
| あいつら | 1 | 1 | 23 | 23 | 24 | 24 |
| あいつら | 1 | 1 | 24 | 24 | 25 | 25 |
| あいつら | 1 | 1 | 25 | 25 | 26 | 26 |
| あいつら | 1 | 1 | 26 | 26 | 27 | 27 |
| あいつら | 1 | 1 | 27 | 27 | 28 | 28 |
| あいつら | 1 | 1 | 28 | 28 | 29 | 29 |
| あいつら | 1 | 1 | 29 | 29 | 30 | 30 |
| あいつら | 1 | 1 | 30 | 30 | 31 | 31 |
| あいつら | 1 | 1 | 31 | 31 | 32 | 32 |
| あいつら | 1 | 1 | 32 | 32 | 33 | 33 |
| あいつら | 1 | 1 | 33 | 33 | 34 | 34 |
| あいつら | 1 | 1 | 34 | 34 | 35 | 35 |
| あいつら | 1 | 1 | 35 | 35 | 36 | 36 |
| あいつら | 1 | 1 | 36 | 36 | 37 | 37 |
| あいつら | 1 | 1 | 37 | 37 | 38 | 38 |
| あいつら | 1 | 1 | 38 | 38 | 39 | 39 |
| あいつら | 1 | 1 | 39 | 39 | 40 | 40 |
| あいつら | 1 | 1 | 40 | 40 | 41 | 41 |
| あいつら | 1 | 1 | 41 | 41 | 42 | 42 |
| あいつら | 1 | 1 | 42 | 42 | 43 | 43 |
| あいつら | 1 | 1 | 43 | 43 | 44 | 44 |
| あいつら | 1 | 1 | 44 | 44 | 45 | 45 |
| あいつら | 1 | 1 | 45 | 45 | 46 | 46 |
| あいつら | 1 | 1 | 46 | 46 | 47 | 47 |
| あいつら | 1 | 1 | 47 | 47 | 48 | 48 |
| あいつら | 1 | 1 | 48 | 48 | 49 | 49 |
| あいつら | 1 | 1 | 49 | 49 | 50 | 50 |
| あいつら | 1 | 1 | 50 | 50 | 51 | 51 |
| あいつら | 1 | 1 | 51 | 51 | 52 | 52 |
| あいつら | 1 | 1 | 52 | 52 | 53 | 53 |
| あいつら | 1 | 1 | 53 | 53 | 54 | 54 |
| あいつら | 1 | 1 | 54 | 54 | 55 | 55 |
| あいつら | 1 | 1 | 55 | 55 | 56 | 56 |
| あいつら | 1 | 1 | 56 | 56 | 57 | 57 |
| あいつら | 1 | 1 | 57 | 57 | 58 | 58 |
| あいつら | 1 | 1 | 58 | 58 | 59 | 59 |
| あいつら | 1 | 1 | 59 | 59 | 60 | 60 |
| あいつら | 1 | 1 | 60 | 60 | 61 | 61 |
| あいつら | 1 | 1 | 61 | 61 | 62 | 62 |
| あいつら | 1 | 1 | 62 | 62 | 63 | 63 |
| あいつら | 1 | 1 | 63 | 63 | 64 | 64 |
| あいつら | 1 | 1 | 64 | 64 | 65 | 65 |
| あいつら | 1 | 1 | 65 | 65 | 66 | 66 |
| あいつら | 1 | 1 | 66 | 66 | 67 | 67 |
| あいつら | 1 | 1 | 67 | 67 | 68 | 68 |
| あいつら | 1 | 1 | 68 | 68 | 69 | 69 |
| あいつら | 1 | 1 | 69 | 69 | 70 | 70 |
| あいつら | 1 | 1 | 70 | 70 | 71 | 71 |
| あいつら | 1 | 1 | 71 | 71 | 72 | 72 |
| あいつら | 1 | 1 | 72 | 72 | 73 | 73 |
| あいつら | 1 | 1 | 73 | 73 | 74 | 74 |
| あいつら | 1 | 1 | 74 | 74 | 75 | 75 |
| あいつら | 1 | 1 | 75 | 75 | 76 | 76 |
| あいつら | 1 | 1 | 76 | 76 | 77 | 77 |
| あいつら | 1 | 1 | 77 | 77 | 78 | 78 |
| あいつら | 1 | 1 | 78 | 78 | 79 | 79 |
| あいつら | 1 | 1 | 79 | 79 | 80 | 80 |
| あいつら | 1 | 1 | 80 | 80 | 81 | 81 |
| あいつら | 1 | 1 | 81 | 81 | 82 | 82 |
| あいつら | 1 | 1 | 82 | 82 | 83 | 83 |
| あいつら | 1 | 1 | 83 | 83 | 84 | 84 |
| あいつら | 1 | 1 | 84 | 84 | 85 | 85 |
| あいつら | 1 | 1 | 85 | 85 | 86 | 86 |
| あいつら | 1 | 1 | 86 | 86 | 87 | 87 |
| あいつら | 1 | 1 | 87 | 87 | 88 | 88 |
| あいつら | 1 | 1 | 88 | 88 | 89 | 89 |
| あいつら | 1 | 1 | 89 | 89 | 90 | 90 |
| あいつら | 1 | 1 | 90 | 90 | 91 | 91 |
| あいつら | 1 | 1 | 91 | 91 | 92 | 92 |
| あいつら | 1 | 1 | 92 | 92 | 93 | 93 |
| あいつら | 1 | 1 | 93 | 93 | 94 | 94 |
| あいつら | 1 | 1 | 94 | 94 | 95 | 95 |
| あいつら | 1 | 1 | 95 | 95 | 96 | 96 |
| あいつら | 1 | 1 | 96 | 96 | 97 | 97 |
| あいつら | 1 | 1 | 97 | 97 | 98 | 98 |
| あいつら | 1 | 1 | 98 | 98 | 99 | 99 |
| あいつら | 1 | 1 | 99 | 99 | 100 | 100 |

『みんなの日本語』『新日本語の基礎』『進学する人のための日本語初級』『日本語初歩』『新文化初級日本語』『初級日本語』との対応表

**初級を教える人のための
日本語文法ハンドブック**

松岡 弘監修
庵 功雄、高梨信乃、中西久実子、山田敏弘著
A 5 判 460頁 2,200円



お知らせ INFORMATION

『みんなの日本語』『新日本語の基礎』を使った、日本語教授法出張講座も承ります。ご予算などはご相談ください。
ホームページでも出版物のご案内をしております。是非ご覧ください。

<http://www.3anet.co.jp>



皆様からの投稿や各コラムへのご質問、ご意見等をお待ちしております。採用させていただいた方にはオリジナルテレカを差し上げます。
このニュースレターをご希望の方は、お名前、ご住所、所属をファックス等で編集室までお知らせください。毎号無料でお届けします。(国内のみとさせていただきます)
『Ja-Net』第15号は2000年10月25日発行予定です。

研修部からのお知らせ

INFORMATION

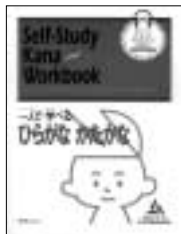
スリーエーネットワークの研修部では国際関連研修をカスタムメイドいたします。『企画から運営までを一貫してプロデュース』することによって、目的に沿ったカリキュラムを策定いたします。また一つのコースに専門研修コーディネーターを配置し研修内容と研修成果を常に管理し、フレキシブルに研修内容の検討を行うようにしております。

ほん

BOOKS

一人で学べる ひらがな かたかな

Self-Study Kana Workbook:
Learning through Listening and Writing
(財)海外技術者研修協会 編 1,400円



ひらがなとかたかなを音声と結び付けて覚える練習帳。五十音、単語、文が収録されたCD付き。CDを聞いて文字の形と読み方を覚えてから書く練習をするので、読み方と形が一度に覚えられて一石二鳥。バランスのとれた字が書けるように、手本の字は手書きを採用。巻末に絵カードつき。発売中。

みんなの日本語初級 翻訳・文法解説ポルトガル語版

発売中 2,000円

みんなの日本語初級 翻訳・文法解説ポルトガル語版

10月発行予定 2,000円

みんなの日本語初級 翻訳・文法解説インドネシア語版

8月発行予定 2,000円

みんなの日本語初級 翻訳・文法解説タイ語版

9月発行予定 2,000円

みんなの日本語初級 携帯用絵教材

6,000円
発行予定は10月に延期となりました。

みんなの日本語初級 本冊 ローマ字版

10月発行予定 2,500円
本冊にローマ字版が加わります。

みんなの日本語初級 翻訳・文法解説ローマ字版(英語)

10月発行予定 2,000円
本冊ローマ字版に対応した英語版です。

みんなの日本語初級 教え方の手引き

スリーエーネットワーク 編 2,800円
『みんなの日本語初級』で教えるにあたって、何をどこまでどのように教えたらいいのか、具体例をあげながら解説。各課の学習項目の文法的な解説をすると共に、具体的な導入・練習例をあげ、指導にあたっての留意点をまとめた。8月発行予定。

新日本語の中級 本冊

2,700円

新日本語の中級 分冊英語訳

1,700円

新日本語の中級 CD

(財)海外技術者研修協会 編 予価4,500円
『新日本語の基礎』に続くテキスト。課ごとに「尋ねる・確かめる」、「電話で連絡する」など、1つの機能に焦点を当てています。「会話」、「読もう」、「聞こうの練習」で話す力・聞く力をバランスよく養成できます。9月発行予定。

本誌に表示した価格は税別です。

ホームページで研修内容をご紹介します。
<http://www.3anet.co.jp/kenshu>
E-mail: kenshu@3anet.co.jp

法人・個人・グループは問いません。まずはご相談ください。

- 【日本人対象の国際化教育】
外国語研修、異文化教育、海外研修など
- 【外国人対象の研修】
日本語教育、管理研修など
- 【研修業務全般の企画・運営・実務】
【通訳・翻訳】



Ja-Net 季刊ジャネット No.14

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する3つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2000年7月25日発行
発行人 小川 巖
発行所 (株)スリーエーネットワーク
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル
Ja-Net編集室 電話 03-3292-6410 FAX 03-3292-6197
営業課 電話 03-3292-5751 FAX 03-3292-5754
<http://www.3anet.co.jp> E-mail: ja-net@3anet.co.jp
日本印刷(株)
© 2000 by 3A Corporation Printed in Japan (禁無断転載)